

第 58 回けんこう教室開催レポート

9月15日(土)、第58回けんこう教室「意外に多い！？甲状腺の病気」を開催しました。講師は吉田知彦 糖尿病・代謝・内分泌内科 副部長。
朝から小雨が降るあいにくの天候でしたが、97名の方にご来場いただきました。



吉田 知彦

糖尿病・代謝・内分泌内科 副部長

今回のテーマは、甲状腺機能の低下や亢進(過剰に働くこと)によって生じる病気についてのお話でした。

甲状腺は、栄養を蓄えたり、エネルギーを消費したりする「代謝」機能を高めるホルモンを出します(これを「ホルモンを分泌する」といいます)。この甲状腺の機能が低下しても、過剰に働いても体に影響がありますが、ホルモン分泌が少ない場合の病気の代表が「橋本病」で、分泌が過剰な場合の病気の代表が「バセドウ病」ということでした。

○機能低下: 寒がりになる、動作がにぶくなる(話すのがゆっくりになる)、むくみが出る、全身の倦怠感、唇が分厚くなる、体重増加などが見られます。高齢者に多く、高齢者の50人に1人程度に甲状腺機能低下がみられます。

○機能亢進: 汗をかきやすくなる、イライラ感、手足の震え、脈が速くなる、下痢、体重減少、眼球突出などが見られます。不整脈のある患者さんに多く、100人に1人程度に甲状腺機能亢進がみられます。

どちらも、甲状腺が腫れることが共通の特徴です。このほか、認知症や不妊症と診断された方が、実は甲状腺機能の低下が原因で、甲状腺ホルモンの補充療法を行ったところ、症状がなくなったり、妊娠できた報告もあるということでした。

治療には、「薬物療法」、「放射線療法(アイソトープの飲み薬)」、「外科療法」があり、それぞれメリット・デメリットがありますので、専門医にご相談ください。「薬物療法」、「外科療法」は、当院で実施しています。特に外科療法については、甲状腺外科の医師が豊富な経験を持っています。放射線療法は当院では行えませんが、実施施設をご紹介可能です。

なお、甲状腺ホルモンの検査は採血で簡単にできることから、疑わしい場合には専門医を受診することをお勧めしますということでした。



「骨粗鬆症を予防する体操」を実演する善田 睿史 理学療法士

講演後には、善田 睿史 理学療法士による「骨粗鬆症を予防する全身体操」を実演し、骨の強化を目指して多くの参加者が一緒に体を動かしました。

○次回は、10月20日(土)10:30～11:30に

第59回けんこう教室 (当院研究棟2F 大会議室)

「知れば知るほど奥が深い排尿症状の話」

(小野澤 瑞樹 腎泌尿器外科副部長 国際医療福祉大学医学部准教授) を予定しています。